

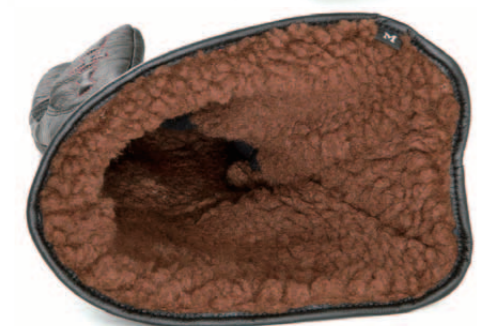


FREE RIDE
ULTIMATE BONE GLOVE

脱着可能なミトンを装備。
防寒でも操作性は失わない。



【ULTIMATE BONE GLOVE】
価格：1万8690円
サイズ：XS・S・M・L
グローブの大事な部分には頑丈な補強と衝撃吸収パッド、滑り止めが配される。



ボディカラーはブラックとホワイト。ステッチは多彩で好きな組み合わせで選択可能。グローブ内部はシープボアを採用し暖かさを保つ工夫が施される。



着脱可能なミトン内部にはリアルムーロンを使用。本体内部にはハイテク素材「サイトス」をインサートすることで、完全防水を実現している。



【オリジナルミトン】
手の部分はゴートスキン、袖部分はカウハイド、内側にはアクリルボアを使った非常に保温性の高いアイテム。参考商品。



LANGLITZ LEATHERS
GAUNTLET



【ガントレット】
ゴートスキン（ヤギ革）を使用しているため非常に雨に強い。参考商品。
〈ラングリッツジャパン〉
052-734-6918



【オリジナルハンドルカバー】
バイクのハンドルに装着できる「ハンドルカバー」。表面はオールカウハイドで、内側にはムーロンを使用した非常に興味深いアイテム。参考商品。



【MOM&POP別注チャーテル】
肌触りにこだわったガントレットグローブ。1万8800円。

寒冷地の伝統が作り上げた
ラングリッツのガントレット。

冬場にバイクに乗る時の手の防寒には、グローブ以外にもクリップヒーターというハイテクパーツもある。しかしいくら手の平が暖かくても、実際に走行して風が一番あたるところは手の外側であり、そこが冷えてしまつて長距離走行は非常に辛くなる。この寒さ対策として考案されたのがフリーライドのガントレット ULTIMATE BONE GLOVEだ。

生みの親である二波さんはこう語る。「手の外側が冷たいと実際のところは一番しんどいので、外側をどうしたらいいかを考えた結果がミトンタイプ。これも実際自分がバイクに乗って思ったのが正直なところで、ただミトンだと俺はちょっと操作しづらいし、5本だと冷たいし……。そうであればミトンのカバーを高速で長時間に乗るときだけつけて、下道を走る時はそれが取り外しができるものがないんじゃないかと。5本指の方には防水のフィルムを入れて、保温性と機能性を両立させて使い勝手が良いなれば、ひ

つで2ウェイ的な使い方ができるしね」
5本指のグローブにミトンの中に使われている茶色いボアを使っていないのは、「5本指は万が一のときに操作性が絶対なので、指からクリップ、ブレイキ、クラッチとダイレクトに伝わる素材じゃないと危ないから」という。実際に装着しているバイカーからは「冬の高速では無敵」と太鼓判を押すものが多い。走った経験の中で見えてくるモノ作りこそ、フリーライドの真骨頂である。

「自分たちがチャーテルを作る時にしても、これは自分たちの（日本の）企画なんですけど、ライダースの袖が入るようになっていきます。ラングリッツがあるオレゴン州は雨が多すぎて寒い土地なんです。場所的には北海道より寒い緯度なんだと思います。夏はサラッとしていて気持ちいいですけど、秋から冬にかけてはほぼ毎日雨が降ってやるよな……。それゆえのゴートスキンなんです。ゴートスキンは皮の細胞の繊維が細かくて、水に非常に強い革なんです。軽いハメ心地というか、それと雨に対する丈夫さから、ラングリッツはこの革を非常にスヌメてるし、アメリカ、特にポートランドでは非常に需要の高いレザーです。作りは非常にアメリカ人好いたくまじさがありますね。それに対してチャーテルの方は外縫いにして、いかにも日本人が考えたような優しい感じですね」

西洋中世の鎧（よろい）騎士のこてや長手袋を意味するガントレット（Gauntlet）。カウボーイグローブやバイカーズグローブの伝統として、多くの人たちに愛用されている。ラングリッツの中でも定番であるこのガントレットグローブのこだわりをラングリッツ名古屋の店長である舟橋さんはこう語る。「まずラングリッツのレザージャケットに関して言うと、採寸してその人の実際の手の長さで作るんですよ。腕を真下にした状態でハンドル握った状態では、袖の長さが約3〜4cm違ってきます。ラングリッツはちょうどその人の手首まわりで完成してくるから、ひよつとしたガントレットの出番は……。でも既製のレザージャケットで、身体にジャストなものを着ると、ハンドルを握った時に袖が短かったりするんです。また、A2やG1なんかの袖がリブのジャケットの場合だと、どうしてもそこから風が入ってしまいます。ガントレットグローブはその風の侵入を極力減らすって考え出されたものなんです。」